



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	雑報
Citation	北海道大学農経論叢, 17, 138-138
Issue Date	1961-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/10800">https://hdl.handle.net/2115/10800</a>
Type	other
File Information	17_p138-138.pdf



## 編集後記

「農経論叢」第十七集がここに出版されることとなつた。ここにいたるまで本論叢もいく度かその名称をかえた。昭和六年に出された第一号はわたくしにとつて、この第十七集と並べてみると、北大農経教室

の方向というものについてのある種の示唆をあたえる。今は教室を去られた、小林巳智次名譽教授、早川三代次先生等なつかしい名がみられる。荒又先生の実証的研究がみられると同時に、今、本教室の最年長者となられた松田教授の「価値論」が原論上の本質論にふれるものとして再読できるのは本當にうれしい。渡辺侃先生の終始変らぬ理論と実証との人生態度への序章はまたこの号にのせられている。

われわれはいかなる目標をもつて進むべ

きなのか、このことはこの第一号の中にもられているように思われる。農経論叢はわれわれの研究成果を載せるものであり、研究者自身の日々の努力と前進との道標である。われわれ研究者の日々の努力と前進とはいつの日か多くの本質的な意味における学友をつくる母胎であり、明るく生氣に益れた教室を形成する母胎である。

最近しばしば、「北大の農経は部外者に對しても開放的で、研究協力という点でも積極的である。」という批評が聞かれる。もしこの批評が教室員各員にとつて真実であり、かつ、各員が理論的に指導的役割を果しうれば、本論叢はより一層充実したものとなることは疑う余地はない。何となれば学問の発展は現実との接触によつて一層拡大深化されるだろうからである。

本号もまた前号同様若い世代の発表の場となつた。しかし寄稿された論文はそれぞ

れ十分価値あるものである。今後われわれは本論叢をより価値高きものとするために努力することを誓うものである。

(高山 崇)

### 農 經 論 叢 第 17 集

昭和三十六年二月十一日印刷

昭和三十六年二月二十七日発行

編集者

金 田 弘 夫  
高 山 崇

札幌市北九西九

北海道大学農学部農業経済学教室

発行者 松 田 武 雄

札幌市北七条西一丁目

印刷者 三陽印刷株式会社